

2014年10月

●石和温泉再生可能エネルギー協議会 第5回研究会開催（2014年10月29日）

「石和温泉再生可能エネルギー協議会」第5回研究会が、10月29日（水）に笛吹市役所 3階 301 会議室で開催されました。今回の研究会の招待講演では、まず、(株)計画技術研究所代表取締役須永和久氏より「まちづくりによる景観・魅力向上と観光地における集客要因調査」と題して、東京都目黒区自由が丘のまちづくりの事例紹介があり、10 項目の秘訣を紹介して頂きました。次に、(株)JTBCコーポレートセールス営業推進本部ソーシャルソリューション地域交流推進局環境マーケットプロデューサー黒岩隆之氏より「電気自動車を活用した地域活性化事業」と題し、EV 導入による温泉街活性化の提案がありました。次回の研究会後にこれまでの提案を検討し、いよいよまとめに入る予定です。

●REPA 情報交換会 田井中 均氏講演（2014年10月21日）

10月のREPA情報交換会が10月21日（火）に行われました。話題提供者は田井中 均氏（東京大学大学院農学生命科学研究科植物分子遺伝学研究室 特任研究員）の「資源作物を利用したバイオファイナリ事業の可能性」でバイオマス資源の幅広い有効利用と事例の紹介でした。

●第5回事務局会議（2014年10月8日）

10月8日（水）18:30～ 第5回事務局会議を開催致しました。来年度役員の選出、エコプロダクツ2014の出展内容、霊山プロジェクトの来年度の進め方、RE 普及支援活動などを議論致しました。

●霊山プロジェクト（2014年10月4日）水田除染

10月4日（土）に稲刈り後の、籾取り作業、籾の千粒重量測定、籾の放射能濃度分析依頼、マツバイ植生部の土壌放射能濃度測定などを行いました。今年の稲の各種分析結果が昨年と比較してどのようになるか関心のあるところ です。

●東日本大震災復興支援技術フォーラム 報告会（2014年10月1日）



河北新聞社、一般社団法人東北地域づくり協会 および東日本大震災復興支援技術フォーラム実行員会の主催による「東日本大震災復興支援技術フォーラム」が10月1日仙台市内で開催されました。定員300名の会場はほぼ満席で、10 件の技術発表がありました。当協会は東北地域づくり協会の助成による「汚染されたバイオマスのメタン発酵によるエネルギー利用の研究開発」について報告しました。

放射性物質による汚染は、土壌や農作物だけではなく道路や河川堤防などの雑草にも広がっていますが、除草作業をしても、焼却処理ができないことが問題となっています。当協会は、こうした放射能汚染されたバイオマスをメタン発酵処理によりバイオガスを製造し、それをエネルギー燃料として利用する実験と発酵過程で発生する消化液中の放射性

物質濃度の測定などを実施しました。その結果、バイオガス中には放射性物質は移行しないことや消化液中の放射性物質の濃度は低く農地還元可能であることなどを確認しました。この技術により残渣だけを処分することになり、放射性物質の濃縮・減容化技術として有効であることを報告しました。また、実際の実験に取り組んでいただいた大沼豊氏御夫妻、下小国区民会会長佐藤好孝氏、当協会会員小谷津洋康氏、山下六男氏が参加されました。